

リトアニア政治・経済月間情勢(6月)

概況

- グリボウスカイト大統領は、年次報告の中で、政府がエネルギー等の重要課題について決定を行わないと強く批判。また、国会会期末に可決された税制改革も抜本的な改革にはほど遠いもので、政府の決断力を疑問視する声が強まった。
- グスタス新経済大臣が就任。保健改革で物議を醸していたアンドリュウカイトイス保健大臣への問責手続きは、不信任決議案の議決まで持ち込まれたが、否決された。
- EU議長国就任を間近に控え、グリボウスカイト大統領及びリンケビチュウス外相が活発な外交を展開した。

内政

【3日】プトケビチュウス首相はグリボウスカイト大統領に対し、グスタス前内務省次官を経済大臣として提案。10日の大統領との面談を経て、11日にグスタス経済大臣が就任。

【4日】グリボウスカイト大統領はサイバーセキュリティに関する関係省庁会合を開催。関係省庁の副大臣が出席。

【11日】グリボウスカイト大統領は国会で年次報告演説を行い、現政権がビサギナス原発等必要な決断を先延ばしにしている、経済性ばかり重視し、エネルギー安全保障の観点が欠けていると厳しく批判。外交面ではEU議長国の課題、内政面では司法改革や汚職対策の成果を強調。プトケビチュウス首相は、これは現政権への批判ではなく解決すべき問題の列挙と述べ、クビリウス野党党首は、これまでの最高の演説と評価。

【12日】野党リベラル・ムーブメントは、一連の保健改革を巡ってアンドリュウカイトイス保健大臣に対する問責決議手続きを開始し、必要な30人の署名を得て、手続きが開始された。25日、問責委員会は、保健大臣の問責に対する回答を不満として、同大臣の不信任決議を実施する提案を可決。同日不信任決議の議決が行われたが、否決された。

【18日】リトアニア行政裁判所は、少数民族学生に対するリトアニア語統一試験簡易化に関する教育科学大臣通達が憲法違反と判決。教育科学大臣は年末までに新たな試験制度を検討すると発言。

【20日】家庭内暴力で逮捕されたバレイクス議員(祖国同盟)の特権免除剥奪が国会で可決された。

【25日】支持率調査で、プトケビチュウス首相の支持率は低下し、グリボウスカイト大統領との差が拡大。社会民主党の支持にも陰りが見え始めた。

外交

【1日】リンケビチュウス外相はウクライナを訪問し、コジャーラ外相と第3回両国外務省間会合を共同開催。2国間及びEUウクライナ関係、国際機関での協力、領事問題等について協議。ウクライナで初となる査証発給センターが開設された。

【3日】グリボウスカイト大統領は当国訪問中のマウラー・スイス大統領と会談し、両国関係、リトアニアのEU議長国優先事項等について協議。会談後、スイスの移民制限拡大措置を批判。

【3日】国連で武器貿易条約署名式典が行われ、リトアニアも署名。ムルモカイト国連大使は、未署名国への締結を要請した。

【3日】リンケビチュウス外相は仏を訪問し、ファビウス外相と会談。ファビウス外相はリトアニアのEU議長国への完全な支持を示し、両国の戦略的パートナーシップの進捗状況を協議した。

【5日】リトアニアで駐欧米軍とバルト諸国が共同で実施する大規模軍事演習Saber Strike 2013が実施され、グリボウスカイト大統領が視察。この演習には、仏、英国、ポーランド等から1,000人以上が参加。

【5日】リンケビチュウス外相は、カリニングラードで開催されたバルト海沿岸諸国評議会へ出席。ラブロフ露外相と会談し、二国間関係の強化、シェンゲン査証の発給、エネルギー問題等について協議した。

【6日】ケリー・アイルランド首相が来訪し、グリボウスカイト大統領及びプトケビチュウス首相と会談。EU議長国の引き継ぎを行った他、経済成長対策、東方パートナーシップ首脳会合について協議した。

【7日】リンケビチュウス外相は当国訪問中のヤーグラン欧州評議会事務局長と会談し、欧州評議会が策定した女性に対する暴力と家庭内暴力の防止条約（イスタンブール条約）に署名。この条約には、閣内や宗教界からの懸念が表明された。

【7日】国家情報局はその年次報告書を初めて対外発表。その中で、ロシアの情報治安機関の当国での活動状況を取り上げ、ロシアへのエネルギー依存が当国の安全への最大の脅威と言及。

【10～11日】リンケビチュウス外相は独を訪問し、ヴェスターヴェレ外相他と会談。東方パートナーシップ首脳会合、EU拡大、NATO等に関し協議。

【13日】ロブサン・チベット亡命政府首相が初来訪。リトアニアとチベットが同様の歴史を持つことに触れ、EU議長国として加盟国へチベット支援を呼び掛けるよう要請。

【13日】グリボウスカイト大統領は、ブラチスラバで開催された中欧諸国大統領会合へ出席。ビリニユスでの東方パートナーシップ首脳会合に向けた準備について各国首脳と各々協議。ガシュパロヴィチ・スロバキア大統領との会談では、両国関係、リトアニアのEU議長国優先事項、エネルギー問題等について協議した。

【13日】リンケビチュウス外相は、ブリュッセルでスヴェインソン・アイスランド外相と会談し、アイスランドがEU加盟の国民投票を行うとの決定を尊重するとコメント。

【14～18日】プトケビチュウス首相はトルクメニスタンを訪問し、ベルディムハメドフ大統領と会談。天然ガス供給等について協議し、ビジネス・フォーラムにも参加。

【17日】リンケビチュウス外相は当国訪問中のルクシッチ・モンテネグロ副首相兼外務・欧州統合相と会談し、モンテネグロのEU及びNATO加盟を支持すると述べ、両外相は欧州統合分野における協力覚書に署名した。

【18日】国会は対セルビア安定化連合協定を承認。EU加盟国の中で、この協定を承認していなかったのはリトアニアのみであった。セルビアのビジネス環境改善を求める決議も採択された。

【20日】グリボウスカイト大統領は、オバマ大統領のベルリン演説に関し、米国の一方的な軍縮に反対、米露間の軍縮交渉は欧州ミサイル防衛システムを犠牲にすべきではないと発言。

【21日】カウナスでバルト3国＋独外相会合が開催され、第3回東方パートナーシップ首脳会合に向けた共同声明を发出。ロシアとの関係やEUの共通外交安全保障政策等も協議された。

【26日】ソマリア沖海賊対策ATALANTAへの派遣部隊18人の内、先遣要員として2名が派遣された。

【25日】グリボウスカイト大統領は当国訪問中のストルテンベルグ・ノルウェー首相と会談し、両国関係、エネルギー戦略、EU・ノルウェー関係等について協議。

【27日】ベラルーシ内に新たなロシア空軍基地が設立されるとの報道に対し、国防省は、相互信頼と良好な関係には資さないが、追加的な脅威とはならないとコメント。

【30日】グリボウスカイト大統領は、クロアチアのEU加盟式典のために同国を訪問し、ファン＝ロンパイ欧州理事会議長と会談。リトアニア議長国期間中に実施される主要な会合及び優先課題について協議した。

経 済

【5日】プトケビチュウス首相及びバシリャウスカス中央銀行総裁は、ラトビアの2014年ユーロ導入が欧州委員会の合意を得られたことへ祝意を表明。

【7日】当地でリトアニア中国ビジネス・フォーラムが開催され、リトアニア企業20社、中国企業10社が参加。

【19～20日】当地大手商業銀行のSwedbankが倒産するとの誤情報が流れ、取付け騒ぎが発生。同行及びリトアニア政府、中央銀行は根拠のない噂と否定。

【21日】リトアニア統計局は、2012年の輸出は前年比14.4%増加し795億7,900万リタス、輸入は前年比9%伸びて859億1,400万リタス、貿易赤字額は前年比31.4%減少し、63億3,600万リタスと発表。

【25日】グリボウスカイト大統領は、当国の若年層失業対策として雇用・国家社会保障・健康保険法の改正法案を提出。若者の職務訓練の機会拡大を図る等の内容。

【26日】食品・動物検疫局は、ベラルーシでのアフリカ豚コレラの発生を受け、同国からの一部製品の輸入を規制すると発表。

【27日】国会で税制改革関連法案が可決。非課税所得額の若干の引上げ等些細な変更が多く、総選挙の公約であった累進課税やVAT引き下げ品目の拡大等は実施されず、抜本的な改革となっていないとの批判が出された。

【27～28日】グリボウスカイト大統領は欧州理事会へ出席し、リトアニアEU議長国の優先課題を財政の安定化、経済成長及び雇用創出、開かれた欧州と説明。

【27日】グリボウスカイト大統領及びリンケビチュウス外相は、EU多年度予算について政治的合意がなされたことを歓迎。

エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【3～5日】カリニングラード原発が建設中断ないし規模縮小されると報道されたことに対して、グリボウスカイト大統領は、この原発及びベラルーシの原発は安全性を満たしておらず、建設中止を歓迎すると発言。

【4日】欧州投資銀行は、クライペダ・オイル社が進めるLNGターミナル建設プロジェクトに対して、8,700万ユーロの融資を決定。

【6日】米シェブロン社は、改正されたシェールガス採掘法の分析に時間を要するため、調査契約の入札結果決定の延期を要請。

【10日】ギリース・カウナス工科大学教授はインタビューの中で、カリニングラード原発計画の停止はビサギナス原発を推進する好条件となると発言。

【14日】イグナリナ原発廃炉問題に関し、ヤヌレビチュウス・イグナリナ原発会社社長は、格納容器をつり上げるクレーンの問題が片付けば、現在凍結されているEU資金が解除される、Nukem社への追加支払について、支払いの前に親会社のロスアトム社から業務遂行の保証を求めると発言。

【19日】グリボウスカイト大統領は、政治的意欲があれば日立と共に少なくとも1つは原発を建設できると考える旨発言。

日本との関係

【1日】当館はビリニウスで尺八奏者・米澤浩氏と箏奏者・熊沢栄利子氏による邦楽コンサートを開催。250人を超える参加があり、盛況を博した。

【3日】アフガニスタンのゴール県でチャグチャラン日本文民事務所の閉鎖式が行われ、日本国旗の降旗が行われた。式典には、ポチウス軍司令官、バグドナス在アフガニスタン・リトアニア特別任務代表等が出席し、我が国への謝意が述べられた。

【14日～16日】アリートス市で第8回盆栽・水石展が開催され、当館は生け花デモンストレーション・ワークショップ、掛け軸展示、書道展示を実施。15～16日には文化交流使・平尾成志氏による盆栽デモンストレーションが行われ、技術指導を通じた盆栽の楽しみ方が披露された。14日、この展示会主催者のプタカウスカス氏に対し、長年にわたる盆栽を通じた日本文化普及の功績を称え、白石大使より在外公館長表彰を行った。

【18日】ビリニウスで核不拡散及び核セキュリティに関するセミナーが開催され、レシュケビチュウス外務副大臣及び白石大使が開会挨拶を実施。会合には、国内関係機関、欧州委員会、インターポール、ラトビア、日本及び米国から計50人以上が参加。今後のリトアニアと日本の間での更なる協力ガイドラインも策定された。20日には、メディニンカイの核セキュリティ・センターで国境における放射能管理に関するワークショップを実施。

【20日】白石大使はリンケビチュウス外相と会談し、2国間協力、核セキュリティ、ビサギナス原発について協議した。外相は、ビサギナス原発の全パートナーが協力し、プロジェクトの改善が実現すること期待すると述べた。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。